

月刊

河井克行

平成二十三年九月一日号

衆議院議員 河井克行事務所

自由民主党広島県第三選挙区支部

国会事務所 TEL:03-3508-7518 FAX:03-3508-3948

広島事務所 TEL:082-832-7301 FAX:082-878-3301

ブログ「あらいぐまのつぶやき」 <http://kawai.fine.to/katsu>

超党派議員連盟「日本を根っこから変える保守の会」事務局長に就任

民主党、自民党、みんなの党、国民新党など中堅・若手議員およそ40名からなる議員連盟が先月末設立され、立ち上げから参画してきた河井克行代議士が事務局長を務めることになりました。会員数100名をめざすこの議連の会長には塩崎恭久・元内閣官房長官（自民党）、会長代行に田中康夫・新党日本代表ら、副会長に浅尾慶一郎・みんなの党政調会長、下地幹郎・国民新党幹事長ら、幹事長に松野頼久・元内閣官房副長官（民主党）が選任されました。以下は設立趣意書の抜粋です。

『日本の漂流と地盤沈下は東日本大震災から始まったものではありません。その前から、政治は混乱し、経済は低迷がつづき、国際社会におけるわが国の地位は低下し、国民は先が見えないとの不安感を募らせてきました。閉塞を打破し、強く豊かな国家・日本の復活を果たすためには、小手先の改革では到底無理です。政権交代から早二年。与野党ともに国民の期待に応えきれないまま、国政は混乱と迷走を深めるばかり。世界は日本の混迷と関係なく、激しく変化しつづけています。日本の変革には一刻の余裕もありません。そこで、「保守」の価値観を共有できる次世代の国会議員が、党派をこえて結集することにしました。

経済政策と安全保障政策を国政の基本におく私たちが執るべき基軸は、①大震災の復興財源は、安易に増税に依らないで、着実な経済成長や徹底した行政改革から産まれる果実を充てる ②真の意味での政治主導を確立する ③道州制など新たな国と地方との関係を構築する ④安全保障の観点を入れた新時代のエネルギー戦略を構築する ことです。

国民は、日本を強く豊かな国にするための政界再編成を待ち望んでいます。「保守」の理念に則った政策を立案し、互いに信頼し、自律して行動する志ある議員のご参加をお待ちしております…』



事務局長として、設立総会の司会を務める河井克行代議士

(8月31日 / 衆議院第二議員会館にて)

66 回目の原爆記念日

今年も広島に暑い夏がやってきました。実践倫理宏正会平和祈念朝起き会、広島戦災供養会原爆死没者慰霊行事、茶道裏千家淡交会青年部平和祈念茶会、上温井義勇隊の碑お参り、広島市主催原爆死没者慰霊式・平和祈念式、嵐の中の母子像供養、動員学徒等原爆死没者追悼式典、広島護国神社原爆慰霊祭…。政治家になって20年。河井克行代議士が毎年欠かしたことがない「祈りの8月6日」です。



祈りを捧げる河井克行代議士

でも今年の8.6はいつもと違っていました。福島第一原発事故により、日本中が放射能の恐怖に苛まれていたからです。手を合わせる河井代議士に湧き上がってきたのは、八度の国会質問を通じ明らかになった政府の無策への怒りであり、“大本営発表”のように情報を隠したり、子どもの健康測定を先延ばしにした現政権への怒りでした。

(8月6日 / 平和公園・上温井義勇隊慰霊碑にて)

“黒い雨”、内部被爆、ヒロシマの教訓を活かすため、河井代議士は闘い続けます。

日本に一台しかない“放射線検出器”は眠ったまま...

8月9日、河井克行代議士は衆議院科学技術特別委員会で原発事故への対応につき、細野豪志担当大臣らを追及しました。広島大学専門家の助言を基に河井代議士は次の『三段階緊急対策』を提案。①地表1mの放射線量を航空機により青森から愛知・石川まで測定、②発見された高い放射線汚染地域(ホットスポット)の土壌を調査、③その地域に住む人々の健康調査を優先的に行う。



鋭い質問を繰り出す河井克行代議士

(8月9日 / 衆議院科技特委にて)

また、今回の質疑で驚くべきことが明らかになりました。①で必要な日本に一台しかない高感度で大型の放射線検出器が「民間ヘリコプタ仕様で、自衛隊機には載せられないため」(文部科学副大臣)、財団法人原子力安全技術センター(文京区白山)に置かれたままだったのです。一方で同じ検出器を一台保有する在日米軍は、3月17日から福島上空を測定。その後、宮城、栃木、茨城の航空機モニタリングに使われたのも米軍の検出器でした。日本政府より外国の方が早く広く対応していることに憤る河井代議士は、世界中から検出器を掻き集め、首都圏を含む東・中日本の放射線量測定を至急行うことを担当大臣らに強く求めました。